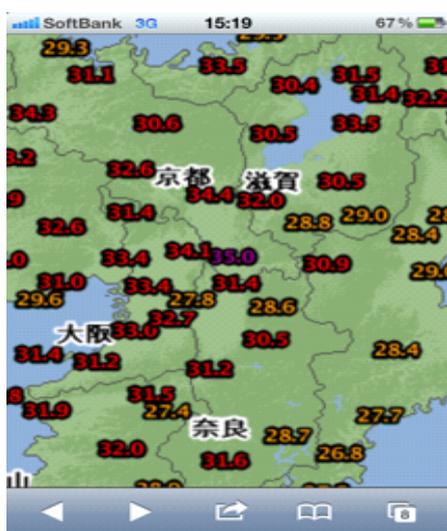


京田辺のヒートアイランド現象調査に参加

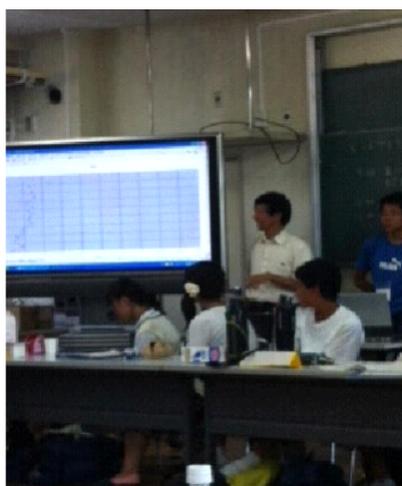
8月10日（金）都市部で気温が高くなるヒートアイランド現象の調査に行ってきました。大住中学校の生徒14名と本校グローバルサイエンス部の生徒11名、さらに気象予報士会学生会の協力による共同観測です。

この調査のきっかけは、ともに気象予報士の資格を持つ大住中学校の阪本先生（理科）と本校の村山保先生（理科）が日本気象予報士会の研修会で出会い、気象予報士会関西支部の学生会員も協力してくれて実施することとなったものです。多分、気象予報士会としても全国初の試みです。私も気象予報士の一人として調査を見てきました。

この日は、晴れて気温が上がり京田辺の15時のアメダスは近畿で最高の35℃でした。（下の紫色で35.0と表示されているところが京田辺）



8月10日午後3時のアメダス



気球観測のデータを解説する村山教諭

正午から午後3時まで、本校の生徒が気球を上げて上空8kmまでの風向を測定し、同時に11カ所で10分おきに約3時間、気温と風向を調べました。

観測後、大住中学校で報告会が行われ、正午から午後1時の間にヒートアイランド現象と思われる状態になっていることがわかりました。午後1時以降、気温は市街地で高くなっていることは明らかですが、全体に吹く風に支配され風向からヒートアイランド現象を判定するのは難しい状況となりました。

後日、詳細なデータの分析がされると思いますがこのような共同研究ができたことは大きな前進でした。

当日の調査は京都新聞、洛南タイムスの記事にも取り上げられ、SSHの普及活動の一環として、更に外部の研究組織との連携という点でも今後の成果が期待できる取り組みとなりました。